

JAITI 7

Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundation

JAITIとは、「財団法人日本農業研修場協力団」の英文、
Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundation
の略文字の略で「ジャイチ」と呼びます。1989年、農業を
生活基盤とする、アジア・アフリカ諸国の農村地域社会の
人々が、「生きる糧料」の食料を安定確保することで、生
活の中に基礎的な教育と公衆衛生に目を向ける奉とりを持
ち、健康で、自立心豊かな地球上の「友」になることを願
って、活動が展開されています。

発行 (財)日本農業研修場協力団
住所 〒385-05 長野県小県郡武石村沖456
TEL.0268-85-3465 FAX.0268-85-3583

今日のジャイチ

◆前年度の事業報告及び、
本年度の事業予定です。ご
高覧戴き、一層のご支援を
お願い致します。

◆第二期事業報告

一九九三年四月一日より、
一九九四年三月三十一日迄
に実施した事業です。

・農業技術者派遣を、社団
法人国際農林業協力協会
(AICAF)の支援を受け
、カカニ実践研修農場へ、
松浦浩氏を六ヶ月間派遣。
残り六ヶ月間は、松浦氏の
奉仕参加により、通年態勢
の形で、地域の総合農業改
良普及的役割を担い、住
民より厚い信頼を受けな
がら、指導をしました。

・ネパールへのボランティア
参加者二名を、三ヶ月と
五ヶ月受入。従来よりの方
針であったが、最近、この
程度の期間、継続して参加
して貰わないと、生活習慣、
風土の異なる地での奉仕作
業は、効果が出ないことを
確認した。

・カカニ実践研修農場では、
地域農家子弟を研究生とし
て受入、送り出し。地域農
家への基礎食料作物とし
て、「さつまいも」の普及、
苗配布、作付指導、換金作
物としての「苺」の試験作

その他従来通り、各種作物
の試作、研究作の継続実施。
農場内の灌漑施設を含む耕
地基盤整備、植林用苗木生
産の実施等をした。

・シンパンジャン農業実践
学校は、ネパールの学期習
慣により、一九九四年二月
二十八日、第二期生の一年生
三〇名を受入。現在二学年
各一クラス、合計六〇名在
校。この為の教室棟、教員
宿舎棟の建設を実施。又、
前号で報告の通り、昨年七
月の未曾有の大雨による、
生徒実習用農場の流出によ
り、新農場地への道路付替
作業を実施した。

・森林回復のための基盤整
備研究の一環として、環境
事業団の助成を受け、種子
保存小屋の建設、古着の海
上コンテナ輸送を実施。寄
●農場風景



附行為であっても、織製品
を国外へ出す場合、通産省
の輸出承認、輸出検査法に
基づく許可を得ることが、
必要と判明。この手続作業
を含め、他に多大な教訓を
得た。

・ネパールの文化案内、情
報提供の一環として、郵政
省、AICAF、環境事業
団のネパール視察調査団の
受入、各NGO団体の調査
研究者、文京女子大学スタ
ディーツアーを始め、トレ
ッキング、旅行に出る人へ
の助言、協力、現地への連
絡、諸手配事を実施。

・機関誌、五、六号及び、
英文パンフレットを発行。
これらの事業費及び、事
務局運営費に、別掲収支報
告の通り、皆様からの寄附
金を始めとする収入をもつ
て、賄いました。

・農業技術者派遣は、松浦
浩氏が引続いて赴任。本年
度も、六ヶ月間、AICAF
の支援を受けることに内
定。残期間は奉仕参加。
・カカニ農場は、農場基盤
整備を実施しながら、研修

生を受入、作目の研究試作
を実施。森林回復のための
研究林地を区割りして、経
統観察態勢を組む一方、植
林用苗木生産の継続。



◆また一棟増えました

・シンパンジャン学校は、
第三期生受入準備として、
教室棟、教員宿舎棟、児童
用便所棟を建設。三期生三
十名は、九五年二月末に入
学予定。

・武石村の農家へ、ネパ
ルより研修生を受入派遣。
・機関誌は、本号及び、九
五年一月発行。

・奨学金里親制度の拡大、
ネパール文化案内、情報提
供、現地への手配等は、従
前通り実施。

・事業費及び運営費は、今
日迄と同様、皆様からの寄
附金、基本財産運用収入、
郵政省国際ボランティア貯
金に係る寄附金、AICAF
の支援金、環境事業団よ
りの助成金等をもって、運
営致します。

・尚一層のご支援方を、お
願い申し上げます。(窮患

ネパールの 外国人に対する 解放政策

最近のネパール政府の発
表によると、居住査証を希
望する外国人に対して、規
約が改革される模様。政府
の狙いは、国の工業化を進
め、経済力を高揚させるの
が目的である。

本年制定予定の政令のひ
とつに、ネパール人女性と
結婚していた、或はしよう
としていた外国人に対し、
居住査証が発給されること
になり、当事者の歓迎は勿
論、ネパール人女性の主権
獲得への期的過程である。

又、外国人投資家には、
準備段階に対し六ヶ月、百
万米ドル以上の投資計画に
対しては、直ちに居住査証
が交付されるが、同時に居
住外国人は、年間二万米ド
ルの消費も義務付けられた。
観光業においても、通常
の観光査証やトレッキング

・パームツット取得を円滑に
する方向政策を含め、この
七月一日より新政府の施行
実施を予定し、査証申請料
も同日より改正される見込。
結局、政府としては、最
近の外国人出入国の動向を、
産業に起因する、国の経済
の核とみなし、このような
改革に踏み切ったものとお
もえる。

文責 ジャイチネパール
ナワン・D・シムラバ

財団法人日本農業研修場協力団収支報告

1993年4月—1994年3月(単位千円)

1. 収入の部	
①基本財産運用収入	480
②支援者寄附金	5,922(455件)
③公的機関よりの寄附 金・助成金・支援費	15,745
④財団設立者寄附金	6,323
⑤その他の収入	512
⑥前期よりの繰越金	1,078
合計	30,060
2. 支出の部	
①国内事業費	1,172
②国外事業費	23,413
③国内事務局運営費	4,735
合計	29,318
3. 次期への繰越金	742

4. 収支報告に関する留意事項

①収入の部の③公的機関は、郵政省
国際ボランティア貯金に係る寄附金・
環境事業団地球環境基金助成金・社団
法人国際農林業協力協会(AICAF)
専門家派遣支援事業費の3件合計
額を計上してあります。
②支援者よりの寄附金は、上記以外
に、「ジャイチ基金」への指定寄附金
及び、無指定寄附金の50%を、直接、
基本財産基金口座へ合計3,850千円を
繰入れてあります。

シンバンジャン学校は 只今60人



▲二年生(右上)、一年生(左下)

二学年二クラス六十名の内訳は、一年生女子二十一名、男子九名、二年生女子十八名、男子十二名です。一年生の中には七名の留年生がいます。従って、二年生にいきなり入学した生徒が、転校生の補充を含めて、八名在籍しています。

先生は、地元出身のバルタウラ校長(二五才新任)昨年引継ぎの、ライ先生(二七才)カマラ先生(二七才)の三人で、一日五時間の各教科を分担して、取り組んでいます。

又、四月から、七月の第一学期終了迄の予定で、昨年の文京女子大学スタディーツアーに参加した、石井智子さんが、一年間の日本でのネパール語の勉強の成果を持って、ポラントニアで参加して教壇に立っています。

一学期は二月二十八日から七月十五日迄。二学期は八月一日から十月五日迄。三学期は十月十九日から九月五日迄。毎週月曜日・金曜日の予定で進んでいます。

学校史を、十年間記録映

画に収めようと、昨年二度に亘り学校を訪れた、松田カメラマンは、資金協力者(会社)がまだ見付かりませんが、始めた以上、完成させなければと、今年も全面兼任の覚悟で、撮影に入る予定を企てています。

二時間の徒歩通学をする生徒が在籍することから、昼の給食を実施しています。今年か来年には、給食用の厨房と食堂も整備したいと、計画中です。

流出した学校農場用地も、父兄の好意により、代替地の手当もつく見通しとなり、今年から、一部整備に入る予定にしています。

子育ては、始まったばかりですが、日本でも最近は一歳前に育てるのに三十年と言われています。一日、一日を、少しずつ前進させてゆきます。ご協力下さい。

記録映画製作費を支援して下さい

シンバンジャン学校の、開校から、十年後の卒業までの記念映画を制作しています。十年間繰り返ける映画は、学校史の記録以上に、NGO活動に携わる人々への、貴重な資料として、後世に残ると確信しています。この映画製作費を支援して下さい。企業、団体を初年度分の昨年は、松田カメラマンが、全ての費用

研修生受入れ奮戦記

どちらが勉強しているのやら

ジャイチの事務所から西へ十三キロ、美ヶ原高原へ向って走った左手にある我家は、搾乳牛四十頭、肉牛六十頭を飼育する畜産農家です。そんな我家に、ネパールからの研修生、スレンドラ・ラジ・アチャリヤさんを迎えて二週間余、片言の日本語と英語が飛び交い、辞書が活躍しています。好奇心旺盛なスレンドラさんのこと、もう少ししてば、



▲スレンドララジアチャリヤ

日本語を自由に使えるようになるだろうと思います。「今日も水？」と問われて思わず「えっ」と答え、水のことが、雨であることと解るのにしばらくかかりました。簡単な日本語は理解でき、英語も筆談(発音)が違っても私達には理解しにくいので、間に合うので、生活面は問題ありません。

同じ農家でも、耕種農家である彼に、簡易を理解してもらえないのは、一朝一夕には行かない事ですが、長期研修なので、何事もゆっくゆくと、取組んでゆきたいと思えます。「マシシ大好き」と言うスレンドラさんは、日本語の説明と、身振手振で大抵の機械は動かせ

るようになって、大いに力になってくれます。日本語が分かるようになったら、あちこちの友人、知人の農業を見たいと思っています。ネパールへ帰って、何かの役に立つように。

そして私達家族だけでなく、我家を訪れる人々にも、ネパールの事や、そこで生活している人達の事を知ってもらい、感じてもらうことが出来るのも、嬉しいことだと思っています。

(井出 喜久子)

「ネパールNGO連絡会」が発足!!

ネパールを対象として、支援や活動を行っている日本のNGO相互の情報交換や、協力を図ることを目的に「ネパールNGO連絡会」(略称NNN)が結成された。「連絡会」には、ジャイチを含む四九団体(昨年十月現在)が加盟し、情報ネットワークの形成をめざすことになった。「連絡会」の発足は昨年八月二十八日。代表者(会長)に川喜田二郎氏を、会長の運営の中心となる運営委員に、ジャイチの菊池健介事務局長の他五名を選出し、顧問にはバラート・

P・アイトール氏(駐日ネパール王国大使)、伊藤道雄氏(NGO活動推進センター)、岩村昇氏の三名。また、NGO活動のための資料センターを、東京と関西に置くことが決った。東京地区の資料センターは日本ネパール協会内に置かれることになった。資料センターでは各団体の活動に係る資料を収集・公開するだけでなく、日本ネパール協会が保有している資料も合わせて利用出来るよう、同協会に協力を仰ぐことで、より多くのネパール情報が提供可能になるものと考えられている。

近年、ネパールで活動するNGOも増え、活動内容も多様化した。こうした中、NGOの相互理解をもっと進めるべきだとの声が、関係者の中にあがっていた。今回の「連絡会」の結成はこれに応じたものといえよう。第二回総会には、ポラントニアで、東京地区連絡担当者を受けている玉木衛が出席した。

(玉木)

今、カカニ農場では

早いもので、初めてカカニ農場を訪れてから、三年間が過ぎてしまいました。今回は六号に続いて五月末までの経過等を中心にご報告致します。

まず天候、特に雨量につきましては、例年より多くいろいろな災害をもたらした前年と比べて、乾季は昨年より少なく、特に十二月は雨がまったく降りませんでした。また、一月十六日には、この地方で二十数年ぶりという雪が降り、三、五、四、三、二、一と雪積もりましたので、思わぬ雪景色を眺める事ができました。四月は昨年の一割弱と非常に少なく、五月に入ってから上、中旬は昨年の半分以下でしたが、下旬には二〇〇mm以上も降り、これまでと一転して連日のように雨が降り始めました。

昨年は多雨でしたので、今年は少ないのではないかと考え、播種期も一向遅延らせましたが、少なくとも昨年の半分位は降るだろうと思ってたのが間違いで、連日灌水作業に追われてしまいました。

しかし、毎年のように被害を受け一番心配していた降雹は、五月下旬に雨と共にほんの少し降ったのみで

被害を皆無でした。

乾季を利用した畑の造成・整備は、天候にも恵まれて予想以上に進み、現在ではいろいろな作物が育っており、土も、土も、土も、新しく、小石等も多いため、普通の畑のような状態にするためには、少なくとも数年間はかかってしまうと思

います。次に農作物ですが、五月下旬より少しずつ収穫できましたが、最も少ないため来場された方に試食をしていただいております。十二月に入り、最低気温も五度以下になってきましたし、熟してくるとネズミに食べられてしまうので、夜間のみポリフィルムで被覆しました。十二月二十日にカトマンズの店に出荷したところ、キロ当り二〇〇と考えると、少々がっかりして

しまいました。日本円換算ではなく、こちらの物価と比較すれば良いと考え直し、出荷は続きました。その後、二月下旬～三月上旬にかけては、低温の影響で収量も少なくなりました。



ませんでしたが、五月上旬まで継続的に出荷をする事ができました。殺菌剤によるネズミ退治も数回行いましたが、ここでは根切虫とネズミ対策が、草栽培に必要かと思いません。また、昨年は水稲が枯らされてしまったので、稲ワラも敷くことができず、五月に入り降雨と共に泥による果実の汚れも目立ち始めましたし、ランナーも出始めましたので、五月五日の出荷で打ち切り、来年へ向けての苗づくりに変更しました。今年は育苗用のポットもありませんので、昨年と異なりすべてをポット育苗でとって育てています。また、品種試験の結果は、最初に持参した女峰が一番成績も良かったので、他の品種はすべて整理して、現在では女峰のみを育苗しております。



▲大量のキャベツ種苗

小麦の収穫は天候も良く、五月上旬にはすべて終了しましたが、日本とネパール各一品種を残して他は整理しました。牛の青刈飼料用として、エン麦とライ麦を各々二品種ずつ試作しましたが共に成績も良く、今後は野菜類の前作として、面積を増やす予定です。ジャガイモは、二月上旬に播付け、現在は収穫を待つのみです。サツマイモも、三月上旬に親イモをふせ込み、五月中旬には第一回目の播付けも終了、六月に入ってから第二回目の播付けを行なう予定です。畑の空くのを待っています。

キャベツは、第一回目の播種を昨年より遅らせ、三月に入ってから行い、下旬にはポットに移植し、四月中旬に定植しました。品種比較試験のため、十品種以上もあつた事と、乾燥も激しかったので、種穴への堆肥液の施用と共に灌水も欠かせず、植えるのに日数を多く費してしまいました。早い品種は五月下旬に収穫でき、今後次々と収穫を迎えますが、降雨による湿害も品種によっては出始めております。現在では対照品種のKKクロス(ネパールで多く栽培されている品種)より、良い品種が見つければと願っています。



▲暴れ風、播わる！

また、付近の農家より、キャベツを栽培してみたいという声もありましたので、ネパールで栽培されているKKクロスの子種を購入して準備はしましたが、農家には灌水施設も無く、雨が降り始めてからの播種も、短時間に大雨が降りますので、苗床には覆いが必要となり農家での共同育苗は困難と考え、農場で育てた苗を譲り試作してもらっております。但し、この地方に速する品種を見つけないため、試作中の品種ですので、心配もあり制限しておりますが、一回目・二回目共各々千本以上となってしまいました。大根は、第一回目の播種を四月下旬に品種試験も兼ねて行い、二回目は降雨後の五月下旬に美濃早生を、次回は農場で採った種子を播いて、生育状況を調べる予定です。ゴボウも土壌的には余り感心しませんが、要望も多いので四月上旬に播種しましたが、乾燥のため発芽率も悪かったので、五月に入り追播、また別に、四月下旬には五品種の比較試験のため播種も行いました。結球レタスも試作したところ、以外と好評でした。その他、トウモロコシ、インゲン、キュウリ、実取用大豆、枝豆等品種試験も兼ねて栽培しておりますので、空いている畑がなくなってしまう、今後は収穫を待つだけの播種や植付けになってしまいます。水稲も昨年より面積は減りましたが、六月上旬には田植を行う予定です。森には今までさんさん荒らされ、いろいろな苦労してきましたが、軌道に日本のおくりワナを仕掛けたところ、初日はワナを壊して逃げてしまいましたが、捕獲したところ翌日はみごとに射り、大勢の人が珍しいのか、普段には香芳してゐるためか集まり、身動きのとれない程を殺し殺しました。解体した肉や骨は、集まっていた人に分けましたが、肉はシエル料理のスタテイ(焼肉料理)にして食べたところ、非常に美味でした。再度捕らえようと思っておりますがその後は近くの畑には進入して乾しているのに、ジャイチの畑には警戒してか進入して来ません。植林も、昨年植えた苗木の補植も兼ねて、今年は早く開始する予定です。これからは、雨の日が多く太陽も余り見ることができない雨季になりますので、植付け、除草、追肥、土寄せなど乾季と異なり、雨の中での作業が多くなってしまうので、作業効率も低下してゆき予定しております。最後に、ジャイチをご支援下さっている皆様方にお礼申し上げます。また、長期に渡り滞在され、農作業にご協力くださいました和田恒夫氏に、厚く感謝申し上げます。

ジャイチからのお願いとお知らせ

ネパール農場と 学校訪問の旅 参加者募集

ジャイチの農場と学校にあなただの足跡を残してみませんか。募集要項ご希望の方、お問合せの方、ジャイチ事務局までご連絡下さい。

11/12日	成田8:45集合。香港乗換で20:15カトマンズ着。
11/13日	飛行機でポカラへ移動。着後皇太子様も登られた、サランコットへ、ミニトレッキング。
11/14日	バスでチトワン国立公園へ。霧の中でランプの灯をお楽しみ下さい。
11/15日	終日、時を忘れて滞在。象に乗ったり、カヌーの出下りで過ごします。
11/16日	バスでシンパンジャンの学校訪問。子供達と交流してカトマンズへ。
11/17日	カカニの丘の展望台で、ヒマラヤの山々を眺めてから農場訪問。
11/18日	朝1番で、今度はマウンテンフライトで空からヒマラヤを眺め、戻って市内観光。午前発で香港へ夕方着。夕食後ビクトリアパークの夜景を楽しまします。
11/19日	午前発で荷物引取り後解散。成田へ15:00着。
11/20日	

申し込み
〒386-06
長野県小県郡武石村沖456
ジャイチ事務局 (意田)
TEL 0258-85-3405
FAX 0258-85-3583

・費用 三十一万円、全ての旅費、宿泊費、食事が含まれています。参加者がこの他に用意する費用は、成田往復の日本国内交通費と、海外旅行傷害保険料だけです。

香港空港出発階乗口で合流、復路、香港のホテルで解散を条件に、各参加者を手配して見ます。申込時にその旨をお申下下さい。同一費用を予定しています。

この訪問の旅は、ジャイチが主催して、案内します。旅行業者のバックツアードではありません。参加者一人一人が、旅の意義を自覚し、ネパールを分かち合い、理解の場としていたいただきたいと思えます。

申込期限

八月二十五日 (木)

但し、定員になり次第〆切ります。

「奨学金里親募集」

現在十組の、日本・ネパール親子が生まれています。

ネパールには、まだ奨学金の提供を待っている子供が沢山います。要項をご一読願って、里親を、引受けて下さると、大変嬉しいのです。お申出をお待ち致します。



▲Tsering Sherpa (男)8才



▲Gyanu Tamang (男)6才



▲UKI Sherpa (女)5才



▲Nar Prusad Thakali (男)10才

と受給者は、基本的に、親子になる気持をお持ち下さいます。

・提供期間の目安は、十年間。子供の受給開始年齢によって多少短くもなりますし、更に上の学校へ出すと長くもなります。

・金額は、年額六万円を予定して下さい。

・お申出がありましたら、以下の順序で進めます。

・申込受付→ネパールへ、受給者の選定依頼→希望者の紹介→提供者へ案内→提供者の了解を受けたら→受

給者に通知→送金開始の順です。送金を受けましたら、子供名で口座を開き、入金証を提供者に返ります。

・希望者の紹介時、受給希望者本人の氏名、年齢、入学予定学校名、写真が送られてきますから、提供者は

この資料で判断します。縁組が成立しましたら、親子です。どうぞお互いに連絡をしながら、成長を見守り下さい。勿論ジャイチは、時により連絡役を、喜んでお引受けします。

編集後記

暑中お見舞い申し上げます。このニュースレターが、お手元に届くころ、今年はお夏の太陽が照りつけていることでしょうか。

私は武石村に住む一サラリーマンで、年二回のニュースレターの編集作業の手伝いをさせて頂いています。この人間関係を伴うわずかな作業は、小生にとって趣味の山歩きなどと同時に都会に住む皆様、この田園風景の中で、ジャイチに携わってみませんか。(想

ご寄附のお願い

ジャイチの活動を何れも心に留めて下さり、感謝申し上げます。運営されている財源その他について説明とお断りを致します。ご協力をお願い申し上げます。

1. ジャイチ基金……財団法人ジャイチの基本財源の確保
基金を信託銀行で運用し、その果実(運用費)でジャイチ活動の基本部分を確保することを目的としています。積立金、多利、果樹のようなものです。
・基金が大きくなればなるほどジャイチの財源が豊かになります。
・基金へ寄付して頂いたお金は何十年何百年とまでジャイチと共に儲けの源が残り続けます。
2. ジャイチ維持費……ジャイチの運営維持費
基金から生み出される財源では只今のところ不足を来します。そこで今必要な活動に使うべく目的のものです。一年草のような春種えて秋に収穫して終わります。・当分の間、この維持費はジャイチの活動に欠かせない費用です。
3. ジャイチ事業費
新たに大きい費用のかかる事業を計画した時にその必要費用として確保することを目的としています。
・通常の子算(ジャイチ基金の果実、ジャイチ維持費で組まれる)では賅いきれない時に臨時に集める目的寄附金です。
・必要な時に皆様にお断りのお知らせをさせていただきます。

ジャイチでは上の3つのような形で寄附をお願いしております。何にご寄附下さったのか、お教え頂きますと幸いです。もしも他に指定のない場合は基金と維持費に半分ずつ使わせて頂きますのでご了承下さい。

郵便振替 00510-4-65434
銀行振込 八十二銀行丸子支店(番) 420677
口座名 財団法人日本農業研修協力団
住 所 〒386-05 長野県小県郡武石村沖456
電 話 0258-85-3405 FAX 0258-85-3583
尚、金額に関しては規定がございませんので、お独りお独りご自分でお決め下さいますようお願い申し上げます。(例えば、収入の1%を、小遣の1%を、的々お断りは如何がでしょうか。)